

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市民プラザ	評価対象年度	令和7年度
事業者名	川崎みらい創造グループ 代表者 株式会社コングレ 代表取締役社長 武内 紀子 東京都中央区日本橋3丁目10番5号 構成員 コナミスポーツ株式会社 代表取締役社長 室田 健志 東京都品川区東品川4丁目10番1号 構成員 株式会社東急コミュニティー 代表取締役 速川 智行 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号	評価者	市民文化局市民生活部 企画課担当課長
指定期間	令和2年4月1日～令和9年3月31日	所管課	市民文化局市民生活部企画課

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組・事項

利用実績	【総利用人数】 281,963人〔令和6年度：253,988人 令和5年度：241,439人〕 <内訳> ・文化施設 92,630人〔令和6年度：80,662人 令和5年度：102,243人〕 (ふるさと劇場、屋内広場、会議室、練習室、茶室、ギャラリー) ・体育施設 165,862人〔令和6年度：157,396人 令和5年度：123,740人〕 (プール、体育館、トレーニング室) ・ふれあい施設 12,802人〔令和6年度：11,597人 令和5年度：9,173人〕 (浴室、大広間、囲碁将棋室、プレイルーム) ・その他施設 10,669人〔令和6年度：4,333人 令和5年度：6,283人〕 (ふるさとコーナー、特別和室) 【健康増進事業】 年間教室 6教室6,195人〔令和6年度：6教室5,722人 令和5年度：6教室 4,117人〕 短期教室 23教室3,029人〔令和6年度：21教室2,950人 令和5年度：19教室 2,899人〕 【文化・教養事業】 年間講座 22講座27教室4,845人〔令和6年度：23講座28教室3,857人 令和5年度：25講座30教室4,792人〕 短期講座 14講座53教室 475人〔令和6年度：14講座33教室 344人 令和5年度：13講座34教室 344人〕 ※年間・短期講座の体験・見学会への参加者延べ205名〔令和6年度：168人〕 【市民相互の交流行事等事業】 主催・共催・自主事業 25事業35,624人〔令和6年度：25事業34,190人 令和5年度：35事業35,592人〕 【貸館施設利用率等】 総利用率 30.3%〔令和6年度：30.6% 令和5年度：29.1%〕 <主要施設> ・ふるさと劇場 42.8%〔令和6年度：43.0% 令和5年度：42.2%〕 ・会議室 26.9%〔令和6年度：28.2% 令和5年度：27.1%〕 ・練習室 64.1%〔令和6年度：65.1% 令和5年度：58.5%〕 ・茶室 37.6%〔令和6年度：37.2% 令和5年度：31.4%〕 ・ギャラリー 79.5%〔令和6年度：80.2% 令和5年度：77.4%〕 ※設備故障に伴う諸室の休止状況 (浴室) ・令和7年4月1日～令和8年3月31日
収支実績	(1) 収入 498,050,710円〔令和6年度：440,280,294円〕 内訳：指定管理料 316,640,000円〔令和6年度：280,872,822円〕 利用料金収入 73,282,470円〔令和6年度：67,180,785円〕 健康増進事業収入 44,076,115円〔令和6年度：39,209,850円〕 文化・教養事業収入 31,277,090円〔令和6年度：24,552,150円〕 市民交流事業収入 2,188,344円〔令和6年度：2,025,655円〕 レストラン事業収入 21,761,170円〔令和6年度：17,689,250円〕 設備故障による収入補償等額 1,979,128円〔令和6年度：2,179,317円〕 その他 6,846,393円〔令和6年度：6,570,465円〕 (2) 支出 471,828,159円〔令和6年度：436,059,089円〕 内訳：人件費 168,117,820円〔令和6年度：151,370,279円〕 管理費 205,136,201円〔令和6年度：198,923,802円〕 健康増進事業 47,186,509円〔令和6年度：42,409,975円〕 文化・教養事業 15,585,163円〔令和6年度：14,191,035円〕 市民交流事業 1,370,669円〔令和6年度：1,437,668円〕 レストラン事業 9,931,742円〔令和6年度：7,823,808円〕 本社経費 12,000,000円〔令和6年度：12,000,000円〕 その他 12,500,055円〔令和6年度：7,902,522円〕 (3) 収支差額 26,222,551円〔令和6年度：4,221,205円〕 (4) 自主事業収入 5,411,296円〔令和6年度：4,441,084円〕 (5) 自主事業支出 3,135,383円〔令和6年度：2,361,057円〕 (6) 自主事業収支差額 2,275,913円〔令和6年度：2,080,027円〕

サービス向上の取組	【施設の管理運営事業】 ●趣味の講座受講料の支払いに、受講者から要望の多かったキャッシュレス決済を導入し、利便性及び満足度の向上につなげた。 ●フリースペースのアンケートを実施し、モバイルバッテリーシェアリングサービスの導入やプレイルームでの「おはなし会」の開催、ふるさとコーナーの開放予測カレンダーの発信などの取組を実施した。
	【健康増進事業】 ○キッズダンススクールでは、川崎市民プラザ内で開催した「趣味の講座発表会」において、ダンスを披露し、日頃の成果を発表する場を提供することで、モチベーションアップを図った。 ●令和8年度末を目途とした現施設（本館）利用終了の影響による受講者の減少を見越して、初心者向け新規講座の開講や、キャンセル待ちが発生していた講座の増設、子ども向けのスポーツイベントの開催など、利用者の増加に向けた取組を実施した。 ●市民相互の交流事業として開催された「プラザde昼飲み」において、「スポーツ縁日」として、年齢を問わず楽しめる体験会を開催し、施設の利用促進や、トレーニング動機の喚起を図った。
	【文化・教養事業】 ●新たな短期講座として、「はじめてのドッグウェア」や「40代からのK-POPダンス」など、多様な関心やライフスタイルに応える講座を2つ開設した。 ●令和8年度末を目途とした現施設（本館）利用終了の影響による受講者の減少を見越した新規講座の開設、前年度に実施し好評だった短期講座の増設など、利用者の増加に向けた取組を実施した。
	【市民相互の交流事業】 ●地元の祭りや盆踊り大会について、これまでの交流行事事業の実施によって得た知見を活用した事業の改善のための適切な提案を行うなど、町内会などの主催者や関係者と密に連携、調整を図り、安全に開催し、地域の賑わいを創出した。 ●「プラザde昼飲み」における健康増進事業の体験会や、「クリスマス・ファミリーフェスタ」における消火器の体験会を開催し、多くの来館者が集まるイベントを活用し、事業横断的な取組を実施することで、施設全体の魅力の発信と利用促進につなげた。

3. 評価

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組・事項

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	6	4	4.8
		利用者満足度は高い水準となっているか			
		調査結果の分析を行い、高い満足度を獲得するための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	4	4.8
		当初の事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由)				
	【利用者満足度】 ●窓口や御意見箱、メールでの問い合わせや各種アンケートの実施のほか、新たに趣味の講座受講者アンケートへのWEB回答方式の実施や、WEBフォームによるフリースペースへのアンケートを実施し、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などの把握に努めた。その結果、モバイルバッテリーシェアリングサービスの導入やプレイルームでの「おはなし会」の開催、リニューアルしたふるさとコーナーの開放予測カレンダーの配信や除草や樹木の剪定などを実施した。 ○利用者アンケートでは、文化・教養事業（年間・短期講座）で「たいへん満足」「まあまあ満足」の合計が93.9%（令和6年度：95.9%）、市民相互の交流行事等事業で「大変満足（とても楽しかった）」「満足（楽しかった）」と回答した割合は86.4%（令和6年度：83.6%）と、令和6年度の同趣旨のアンケート結果より減少した項目もあるが、継続して高い水準を維持している。 また、施設利用について「非常に満足」「まあまあ満足」の合計が92.7%（令和6年度：83.8%）、スタッフの対応について「非常に丁寧」「分かりやすい」の合計が92.2%（令和6年度：93.8%）と、前年度より減少した項目もあるが、継続して高い水準を維持している。 さらに、レストランについて「満足」「やや満足」の合計が76.4%（令和6年度：81.7%）と、前年度より減少しているが、継続して高い水準を維持している。 ○体育事業（プール・体育館でのプログラム（教室）内容）の利用者アンケートについて、回答者数が353件（令和6年度：54件）と、前年度と比較して大幅に増加し、また、満足度は、「大変満足」「満足」の合計が73.2%（令和6年度：77.3%）と前年度より減少しているが、継続して高い水準を維持している。				
	【事業成果】 ○事業計画に基づき、文化・教養講座、健康増進講座、各種イベント等を実施した結果、利用人数については、情報サイト・新聞等への広報資料の掲載、公式XやYouTube、Instagramを活用するなど、新たな利用者獲得に向け、積極的に情報提供等を行うことで、年間の総利用者としては、281,963人と、部分休館を実施した令和6年度と比較して27,975人の利用者増（令和6年度：253,988人）となった。 ○文化・教養講座について、新規講座の開設や体験会、見学会の開催などの新規参加者獲得のための取組により、年間・短期講座参加者の合計が5,320人と、部分休館を実施した前年と比較して1,119人の参加者増（令和6年度：4,201人）となった。 ○健康増進講座について、新規講座の開講や、近隣自治会や公共施設へのチラシの配布など、利用者層の拡大及び令和4年度から令和5年度にかけて発生した、設備故障に伴うプール休止の影響による利用者離れの影響からの回復を図る取組により、年間・短期講座の登録者数の合計が9,224人と、令和6年度と比較して552人の登録者増（令和6年度：8,672人）となった。 ○地域に根差したイベントである「新作第一町内会盆踊り大会」及び「橋ふるさと祭り」について、主催者や関係者と密な連携、調整を図り、これまでに実施した交流行事事業から得た知見を活用することで、併せて13,019人（令和6年度：12,199人）が参加し、多くの交流が生み出されたイベントを安全に開催することができた。 ●レストラン事業について、令和6年度に引き続き、直営での運営による利点を生かし、通常メニューの拡大などの取組を実施したほか、令和7年度はお弁当注文フォームの導入など、販売機会増加のための取組を積極的に実施したことにより、利用状況が向上し、近隣に飲食店が少ない中で、利用者のニーズに応えることができている。				

分類		着眼点	配点	評価段階	評価点
収 支 計 画 ・ 実 績	効果的・効率的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3.0
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	5	4	4.0
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか	4	3	2.4
	(評価の理由) 【効率的・効果的な支出】 ○原油価格・物価高騰などの影響による経費の急速な増加などの予測困難な状況に対し、広告宣伝などに係る業務の内製化や、館全体の設備投資内容の見直しなどによる経費削減の取組を進めることで対応した。 ○施設の老朽化に対応するため、子ども用プール濾過機の循環ポンプ整備や体育棟男子更衣室シャワーブースの混合水栓交換などの必要な修繕を実施し、施設の安定稼働に努めた。				
	【収入の確保】 ●利用料金収入について、令和8年度末を目途とした現施設(本館)の利用終了に伴う利用控えや収入減少の発生を見越して、トレーニングルームの新規利用者及び継続利用者増加を目的とした体験会やスタンプラリーなどのイベント実施や、新たに全館の魅力を発信するInstagramを開発し、諸室の利用案内の発信を行うなど、諸室の利用増加のための取組を実施し、前年度の実績及び今年度の計画を上回る収入を確保した。 ●健康増進事業について、令和8年度末を目途とした現施設(本館)の利用終了に伴う受講者の減少を見越した初心者向けの新規講座の開講やキャンセル待ちが発生していた講座の増設、子ども向けのスポーツイベントの開催などにより、前年度の実績及び今年度の予算額を上回る収入を確保した。 ●文化・教養講座について、キャッシュレス決済の導入や、令和8年度末を目途とした現施設(本館)の利用終了に伴う受講者の減少を見越した新規講座の開講、前年度に実施し好評だった短期講座の増設などの取組により、前年度の実績及び今年度の予算額を上回る収入を確保した。 ○レストラン事業について、直営での運営の利点を生かし、「新作第一町内会盆踊り大会」、「橘ふるさと祭り」などの地域行事や、お弁当注文フォームの導入などの取組により、前年度の実績及び今年度の予算額を上回る収入を確保した。 ○隣接する橘処理センターの点検のための休炉期間の延長に伴う対応に要した費用の補填金について、市と協議し、受領した。				
	【適切な金銭管理・会計手続】 ○会計業務のマニュアルを作成し、随時見直し等を行い、スタッフへの周知を図った。 ○月1回の本市と指定管理者の間で行われる連絡調整会議には、施設で勤務する職員とは別に、代表企業及び構成企業の本社職員も参加しており、事業の進捗状況、費用の支出状況などを現場の職員以外の者により確認することができる体制が構築されている。				
分類		着眼点	配点	評価段階	評価点
	適切な事業の実施 (施設の管理運営事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (健康増進事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (文化・教養事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (市民相互の交流行事等事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際の事業実施内容に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			

(評価の理由)

【施設の管理運営事業】

●趣味の講座受講料の支払いに、受講者から要望の多かったキャッシュレス決済を導入し、利便性及び満足度の向上につなげた。

●全館の魅力や利用案内を発信するInstagramを開設し、利用者の利便性の向上につなげた。

●利用者の遊泳中の接触等が続いたことから、プールに監視カメラを設置し、利用者が安全に施設を利用できる環境を整備した。

●歩行者の安全性及びバリアフリー機能の確保のため、劣化が進んでいた北門近辺歩道の点字タイルの修繕を実施した。

○前年度に開始したふるさとコーナーのフリースペースとしての運用については、今年度、開放予定日の積極的な情報発信などの取組を行うことで、利用者数の増加に加え、認知度の向上による有料利用の増加にもつなげることができた。

○イベント等の情報について、情報サイト・新聞等への掲載を行うとともに、公式XやYouTube、Instagramを活用するなど、積極的な情報提供に努めた。

○HPの閲覧数349,211回(令和6年度:331,096回)、ユーザー数257,883人(令和6年度:253,987人)となっており、HP閲覧数、ユーザー数ともに、令和6年度を上回る実績となった。

【健康増進事業】

○健康増進事業全体としては、年間教室6教室 6,195人(令和6年度 6教室 5,722人)、短期教室 23教室 3,029人(令和6年度 21教室 2,950人)と、令和6年度に対して年間教室、短期教室ともに利用者が増加した。

●大人の3か月教室について、前年度に実施した体験会で好評だった「カボエイラ」や、キャンセル待ちが発生していた「筋トレ&リズム体操」と類似の内容である「やさしい筋トレ」、講座が開設されていなかった時間帯をターゲットとした「リンパケアヨガ」を新たに開講した。

○キッズダンススクールでは、川崎市民プラザ内で開催した「趣味の教室発表会」において、ダンスを披露し、日頃の成果を発表する場を提供することで、モチベーションアップを図った。

○地域住民へスポーツ教室を周知するため、文化・教養事業で実施した広報手法を参考に、町内会を通じた回覧板や地域の掲示板を活用した広報、高津区・宮前区・中原区・幸区の行政施設へのチラシの配架などの利用促進の取組を実施した。

●市民相互の交流事業として開催された「プラザde昼飲み」に「スポーツ縁日」として出店し、「キャッチスティック」など、年齢を問わず楽しめる、運動のきっかけとなる種目を行う体験会を開催し、健康増進事業の認知度の向上や、新規受講者の獲得を図った。

●施設利用のきっかけづくりのために、「ドッジボール教室」や「体力測定会」など、子どもが親しみやすいスポーツイベントを開催し、利用者の増加につなげた。

○「着衣水泳教室」を開催し、利用者の水場における安全意識の向上と自己救命能力の育成に努めた。

【文化・教養事業】

○文化・教養事業全体としては、年間講座 22講座27教室 4,845人(令和6年度 23講座28教室 3,857人)、短期講座 14講座 53教室 475人(令和6年度 14講座33教室 344人)と、部分休館を実施した前年度と比較し、年間教室の参加者は988人の増、短期講座の参加者は131人の増となった。

○会議室の利用件数は、3,415件となっており、部分休館を実施した前年度と比較し、741件(令和6年度2,674件)の増となった。

○利用促進や適切な情報提供のために、講座の体験会及び見学会を実施し、体験会を利用者意見の確認の場としても活用した。

●令和8年度末を目途とした現施設(本館)の利用終了に伴う受講者の減少が見込まれる中、利用継続・促進のための新たな短期講座として、「はじめてのドッグウェア」や「40代からのK-POPダンス」など、多様な関心やライフスタイルに応える講座を2つ開設した。

○1年間の集大成となる「趣味の教室発表会」を実施し、2,668人が来場した(令和6年度 2,507人)。

【市民相互の交流行事等事業】

○市民相互の交流行事等事業全体としては、主催・共催・自主事業数が25事業35,624人(令和6年度 25事業34,190人)と参加者数が前年度より増加した。

●「新作第一町内会盆踊り大会」及び「橘ふるさと祭り」について、主催者や関係者と密に連携、調整を図り、これまでの交流行事事業の実施によって得た知見を活用し、イベントにおける飲食提供の充実(メニュー拡充・販売体制強化)などの積極的な取組により、イベントの魅力向上に大きく貢献するなど、利用促進のための主体的な取組を積極的に実施することで、併せて13,019人(令和6年度:12,199人)が参加し、多くの交流が生み出されたイベントを安全に開催した。

●「プラザde昼飲み」における健康増進事業の体験会「スポーツ縁日」や、「クリスマス・ファミリーフェスタ」における「水消火器体験会」など、多くの来館者が集まるイベントを活用し、事業を横断した取組を実施することで、施設全体の魅力の発信と利用促進につなげた。

【業務改善によるサービス向上】

●レストラン営業時間内のみ受け付けていた弁当注文や、窓口で対応していた落とし物に関する問い合わせについて、専用フォームを開設し、業務の効率化を図るとともに、利用促進及び利用者の利便性向上につなげた。

○「クリスマス・ファミリーフェスタ」について、公演の様子をInstagramで配信し、会場に来場できなかった方にもイベントの様子を届ける取組を実施した。

【利用者の意見・要望への対応】

●フリースペースのアンケートを実施し、モバイルバッテリーシェアリングサービスの導入やプレイルームでの「おはなし会」の開催、ふるさとコーナーの開放予測カレンダーの発信などの取組を実施した。

●体育施設の見学対応を行う中で、トレーニングルームの存在が十分に認知されていない状況が見受けられたことから、館外サインを設置し、周知の強化を図った。

●敷地内の車道を歩行する利用者に関する目撃情報が寄せられたことから、歩行者に注意喚起を促すサインを設置した。

○近隣住民からの要望への対応として、指定管理業務範囲外の隣地境界の雑草の除草や植栽の剪定を行った。

○意見・要望等に対しては、各担当者や川崎みらい創造グループ内でのミーティングを通して情報を共有し、改善に努めた。

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適性な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	4	3	2.4
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	4	3	2.4
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	6	4	4.8
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	4	3	2.4
	(評価の理由) 【適切な人員配置、連絡・連携体制】 ○仕様書に基づく適切な人員配置が行われたほか、設備故障による施設の利用休止などが発生した際には、適切な体制について市と協議しながら、柔軟な人員配置が行われた。 ○毎月開催する所管課との連絡調整会議において、業務の進捗状況等を適切に報告しているほか、突発的な出来事や事業の進捗について、連携や協議が必要な場合はその都度、適切な報告連絡が行われた。 【担当者のスキルアップ】 ●施設運営担当及び文化事業担当者が「大人のキッズニア」に参加し、「子ども」及び「ファミリー層」を対象としたイベントや教室の魅力の向上につなげた。 ○健康増進事業グループでは、スイミング・体操スクールの指導者研修を実施し、教室の実施拡大を図った。また、トレーニング研修を実施し、利用者が安全に施設を利用できる環境の整備に努めた。 ○舞台技術グループでは、照明・舞台・音響の部門を横断したグループ研修を実施し、利用者などからの問い合わせへの対応力の強化につなげた。 【安全・安心への取組】 ●令和8年度末の現施設(本館)の利用終了を見据え、施設の老朽化等への対応について、中長期的な予防保全から短期的な機能維持を重視した考え方へ移行し、市と連携しながら適切な修繕及び維持管理を実施した。 ○令和6年度に改定した「川崎市民プラザ消防計画」に基づく、通常時の出勤体制を想定した実践的な自衛消防訓練を1回実施し、スタッフの防災意識の向上や施設の防災力の強化に努めた。 ○スポーツ事業に関わるスタッフについて、入社時にはCPR(心肺蘇生法)・AED訓練を行うこととしており、また、有事に備えた有事ハンドブックを作成している。プール、トレーニングルーム、フロント、事務所のスタッフについて、常にトランシーバーを携帯し、万が一の事故・有事に備える体制を整備している。 ○防災マニュアルや設備操作マニュアルについて、随時、見直し等を行い、警備員、設備員に周知を図った。 【コンプライアンス、職場の労働条件・労働環境】 ○受付業務を担当する株式会社コングレにおいて、個人情報保護、ISO27001研修をeラーニングで実施するとともに、コナミスポーツ株式会社及び株式会社東急コミュニティーにおいても定期的にコンプライアンス研修を実施している。 ○安全衛生や労働条件など、適切な労働環境を確保するとともに、賃金台帳の提出を確実に実施したほか、舞台運営や清掃、警備に関する再委託先の賃金台帳を確認し、下限報酬を下回ることのないよう徹底した。 【環境負荷の軽減】 ●紙媒体の広告について、配布先及び配布状況の整理を行うとともに、制作部数の適正化を図った結果、廃棄率を第1四半期の約10%から第4四半期には約3%まで低減することができた。 ○前年度に引き続き、市と連携し、館内で使用するトイレトペーパーについて、川崎CNブランドの認定を受けた製品を使用するなど、日常的に環境への配慮を意識し、負荷軽減のための取組を積極的に実施した。				

適正な業務実施

施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	4	4	3.2
管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	4	4	3.2
警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
駐車場管理業務	駐車場を安全・快適・適正に管理・運用できているか			
外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
(評価の理由) 【施設・設備の保守管理、管理記録の整備・保管】 ○築45年以上が経過し、設備の老朽化が著しく進行しており、令和7年度も多くの工事や緊急対応の事案があったが、必要な日常点検等の実施や、管理記録の整備、保管を適切に行ったほか、設備の不具合等を発見した際には速やかに市に報告するとともに、市内中小業者などと連携しながら、原因の特定や修繕方法の検討、必要な緊急対応の実施などの取組を日常的に実施し、施設の営業継続に努めた。 ●体育棟女子トイレ配管更新工事など、市が発注する工事の実施にあたっては、利用状況を把握した上で改修作業のタイミングなどを調整し、施設利用への影響を最小限に抑えるよう対応した。 【清掃業務、警備業務】 ○通常の清掃業務に加え、清掃インスペクションを実施し、エリアごとの清掃頻度や作業レベルの見直しを定期的に行い、清潔な環境を提供している。 ○警備員は時間毎に施設内外の定期巡回を実施し、設備等に破損等がないか確認を行っている。また、巡回時間以外は中央監視室での警備を行っている。 【駐車場管理業務】 ●橋処理センターの再整備完了に伴い、令和6年度から供用を開始した西駐車場について、既設バリカーに反射材を取り付けることで視認性の向上を図り、場内における事故の未然防止に取り組んだ。 ○駐車場の利用方法について、前年度の途中より開始した、駐車場の利用方法を案内する動画の放映を通年実施した結果、駐車カードの回収件数が19,142件(令和6年度:13,247件)と、令和6年度より大幅に増加し、利用者に適切な利用を促し、収入の増加につなげた。 ○駐車場が混雑する週末等において、警備員を増員し対応を行った。また、東門駐車場について、イベント等の開催日における臨時駐車場としての貸出の実施や、満車となる日を予測し、警備員を増員して対応するなど、適切な管理を行った。 【外構・植栽管理、備品管理】 ○庭園の樹木について、ナラ枯れによる倒木や落枝が発生していることから、日常的な除草や危険木の剪定、強風等の注意報の発令時や、市が実施した危険木の伐採業務の作業時における庭園の封鎖などの協力を行った。 ○近隣住民からの要望を踏まえ、指定管理業務範囲外の隣地境界の雑草の除草や植栽の剪定を行った。 ○各種備品の日常点検を適切に実施し、必要な備品の補充を行ったほか、多様化する利用目的に対応するために必要な備品の充実を図った。				

4. 総合評価

評価点合計	73.8	評価ランク	B
-------	------	-------	---

注) 評価点 : 100点満点。評価ランク : 5段階評価

A : 80点以上 B : 70点以上80点未満 C : 60点以上70点未満 D : 50点以上60点未満 E : 50点未満

A : 特に優れている B : 優れている C : 適正である D : 改善が必要である E : 問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市民プラザは、昭和54年の開設以来33年間にわたり、財団法人川崎市指定都市記念事業公社が所有してきたものを、公社解散に伴い市が寄贈を受け、平成24年度から指定管理者制度を導入し14年目となる。

令和7年2月に「川崎市民プラザの今後の方向性」として、耐震補強工事等は行わず、令和8年度末を目途に現施設(本館)の利用を終了することを報告したが、令和7年度の総利用者数281,963人は、体育施設・茶室・レストランを除く部分休館を実施した令和6年度と比較して27,975人、令和5年度と比較して40,524人の利用者増となった。

また、文化教養事業、健康増進事業における新規教室の開講や、教室の体験会・見学の実施、情報サイト・新聞等への掲載、公式XやYouTube、Instagramの活用、貸室紹介動画公開など、新たな利用者獲得に向け、積極的に情報提供等を行ったほか、市民相互の交流事業等における、橘ふるさと祭りや盆踊り大会などのイベントについて、これまでの開催実績や、交流事業で培った知見を活用し、主催者などと密に連携・調整を図り、飲食提供の充実(メニュー拡充・販売体制強化)などの積極的な取組により、イベントの魅力向上に大きく貢献しながら、安全に開催した。

さらに、長年課題であったレストラン事業については、地域行事や貸館イベントと連動した特別メニューの提供やケータリングの提供、フードコートとしての利用増加のための取組などにより、令和6年度の決算額を上回る売り上げを達成し、周辺に飲食店が少ない中で、利用者ニーズに応える事業に成長するなど、順調な管理運営を行ったことから、評価することができる。

また、これまでの利用状況や取り巻く環境の変化を踏まえ、幅広い世代に利用される施設となるため、子どもやファミリー層をターゲットとしたイベントや講座の実施などの取組が積極的に行われている。

さらに、管理運営について、施設自体は開館から45年以上が経過しており、年間を通じて各所で不具合等が発生する状況にあるが、不具合が生じた際には、迅速な対応かつ適切なメンテナンス等を実施するなど、円滑かつ適切な施設管理運営を行った。

令和8年度末を目途とした現施設(本館)の利用終了まで、利用者の幅広いニーズへの適切な対応や、不具合が発生した場合の迅速な対応により、円滑な施設管理運営を行っていただきたい。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・事業実施に当たっては、令和8年度末を目途に現施設(本館)の利用を終了することを踏まえた事業計画を検討し、着実に実施するとともに、計画の見直しが必要な場合については、適宜、市と協議の上、実施すること。

・市民相互の交流の場であり、かつ施設周辺の市民が多く利用する施設であることから、長年継続している地元のお祭りや盆踊り大会、健康増進教室や趣味の講座については、現施設(本館)の利用終了まで、引き続き地域に浸透し、親しまれる存在となるよう、社会変容を的確に捉え、適切に対応する取組を進めること。

・幅広い利用者ニーズに適切に対応するため、多様な層の利用者へのアンケート調査を実施し、ニーズを的確に把握することで、利用者満足度の向上につなげるとともに、利用しやすい環境づくり及び魅力のある教室・講座内容とするよう努め、併せて効果的な周知・PR活動も行うこと。

・地域における魅力ある施設となるため、市民が積極的にイベント等に参加できるような支援の実施など、引き続き地域や事業者等との密な連携・調整を図ること。

・設備機器のメンテナンスや備品管理などの施設の維持管理業務や施設敷地内の植栽管理業務について、築45年以上が経過しているため、突発的な故障等が発生しているが、継続して適切かつ安全に配慮して対応すること。

・イベント開催時等において、適切な交通手段による来館の促進策を検討すること。

・新たな社会変容に対応した管理運営を行うため、引き続きYouTubeのオンライン配信などを活用すること。

・施設の老朽化による設備故障に伴う諸室の利用制限等が生じている中で、失われた機能を補う事業や取組の実施を検討すること。

・令和8年度末の現施設(本館)の利用終了を見据え、既存のイベントを継続的に実施するとともに、利用終了を契機とした各種のイベント等についても、適切に企画・開催すること。